

認証保育所

利用保護者に直接助成

浜松市 待機児童解消へ方針

浜松市は、二〇二一年度に向けた政策調整会議「サマールレビュー」の協議内容をホームページ上で公開した。待機児童の解消策では、認証保育所の利用を促す補助制度を新設し、〇〜二歳児を通所させる保護者に直接助成する方針が固まった。

(後藤隆行)

11年度事業協議を公開

認可外でも条件を満たす場合に市が運営費を助成する認証保育所は例年、四月の定員充足率が五、六割程度。認可園と比べて保育料負担が大きいことが理由に挙がっていた。

対象とする〇〜二歳児は待機児童数の七割を占め、協議要旨は

「周知期間など利用促進策について検討を進める」と前向きだ。具体的助成額は不明だが、総額で年間一億円を見積もっている。

障害児の療育拠点については、児童デイサービス整備が一〇年度から国庫補助に認められ、五年間で五カ所

(五十人分)の新設を民間に促す。幼稚園などに在籍する障害児に對しては、専門員による支援を充実させる。

ごみ減量では、将来の二施設焼却体制に向け、新清掃工場の建設手法について検討を進める。現在の減量目標が前倒しで達成できる見通しから、今後の減量推進効果も織り込んでいく方針だ。

水道施設の耐震化では、幹線管路の基準適合化で五割達成が命題だが、改修などの予算規模は大きい。協議要旨は「(四年ごとに見直す)水道料金の改定も含め事業費を検証」と、受益者負担の可能性に言及している。

サマールレビューは八月に庁内であり、鈴木康友市長らが部局提案を精査した。市は政策

テーマ	論点	要旨
障害のある子どもの療育の場の拡充	国の制度改正を活用し、民設民営を基本に毎年1カ所ずつ児童デイサービス施設を設置	ソフト事業を含め必要な事業展開を図る
認証保育所の利用者助成事業	通所する3歳未満児の保護者に助成	実効性あるものとするため、周知期間などの利用促進策について検討を進める
ごみ減量対策	市全体の施設を総合的に勘案した統廃合計画を示すとともに、新清掃工場計画について建設手法を検討	ごみ減量計画の見直しを早急に進め、統廃合計画は課題を整理。今後のごみ減量推進効果など勘案し、新清掃工場の規模や手法を検討する
農業の活性化策	土地集約の方法やモデル地区の設定など、今後の具体的なアクションプランを作成	企業参入に向けては現況調査を進め、モデル地区の設定を検討する
基幹水道施設の耐震化推進	優先して基幹管路の整備を行い、大原浄水場については第5配水池を整備	水道料金の改定を含め事業費について検証する中で、管路整備の優先順位と配水池新設について検討を進める

主な事業の協議過程

形成過程の透明度を高め、予算編成段階で協議結果を公表している。